

ツルコウジ

Ardisia pusilla

ヤブコウジ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

常緑低木。匍匐茎は長く伸び、地上茎は斜上して高さ5～10cmになり、上部に葉が3～5枚輪生状につく。葉は洋紙質、卵形から卵状長楕円形で、縁には粗大な鋸歯があり、長さ2～6cm。葉の両面や葉柄には軟毛がある。花期は6～8月。花序は枝の鱗片葉のわきに単生する。花冠は5深裂し、白色で、径6～7mm、腺点がある。果実は球形で赤く熟し、径5～6mm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州(千葉以西)、四国、九州、南西諸島;朝鮮半島、台湾、中国、フィリピン

【伊豆諸島における生育環境】

常緑広葉樹林内のやや湿った林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地が限られるため、樹林の伐採などで生育環境が改変されないよう注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	2	3	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆: 加藤英寿)

ギンレイカ ※備考 (p. 213)

Lysimachiaacroadenia

サクラソウ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、上部で分枝して、高さ30～70cmになる。葉は互生し、広披針形で先は鋭くとがり、下部は翼のある柄となる。葉の裏面には微細な赤褐色の点がある。花期は6～7月。枝先に総状花序に小さな花を10～30個つける。花柄はやや下向きであるが、果期には伸びて1～1.5cmになる。花冠は白色、少し赤みを帯び5裂し、開出しない。さく果は球形で径5mm、熟すと先が5裂する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州; 済州島

【伊豆諸島における生育環境】

谷筋などの湿った草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道の造成や過度な草刈りなどの管理により自生地が消失することのないように留意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



© 寺尾博

(執筆: 奥田重俊)

モロコシソウ

Lysimachia sikokiana

サクラソウ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。茎は直立または斜上し、短く分枝して高さ30～80cm、稜がある。葉は互生し、卵形で両端がとがり、無毛である。花期は7～8月。花は上部の葉腋に1個ずつつける。花柄は長さ2～6cm。萼は深く5裂し、裂片は三角状卵形で先がとがる。花冠は黄色、5裂し、裂片は狭長楕円形で反り返り、径1～1.2cm、下向きに開く。葯は5個で大きい。さく果は下向きにつき、灰白色球形で径6mm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東南部以西）、四国、九州、南西諸島；台湾

【伊豆諸島における生育環境】

海岸付近の常緑樹林内のやや湿った林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の周辺を含めた樹林環境を保全することに加え、刈取りによる消失に留意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
2	0	0	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆者：奥田重俊)

コイワザクラ

Primula reinii

サクラソウ科

伊豆諸島

CR

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。根茎は細く、数枚の葉を束生する。葉は長さ3～10cmの柄があり、花茎とともに白色で縮れた軟毛が生える。葉身は円形または腎円形で、浅く7～9裂する。花期は5月。花冠は紅紫色で高杯形、径1.8～2.5mm、筒部は長さ8～10mm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東、中部、近畿）

【伊豆諸島における生育環境】

高標高地の岩の隙間に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育状況の確認が必要であるが、園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することが望ましい。また、植生遷移の進行や自然災害による自生地の破壊、登山道の拡張などが脅威となる。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981。

「現存する株数」別の情報数

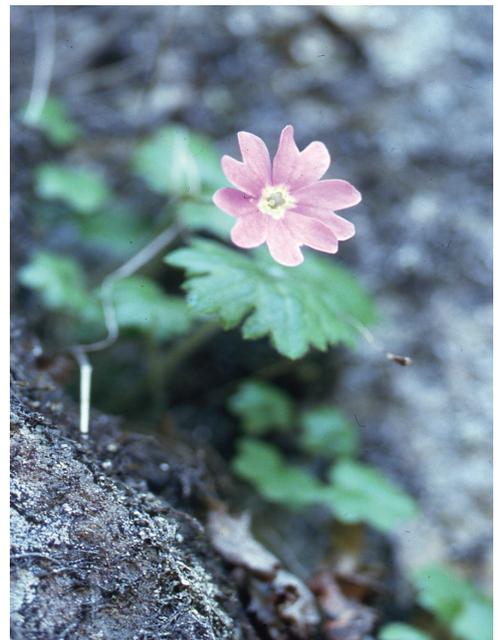
～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	2	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆者：上條隆志・奥田重俊)

イソマツ

Limonium wrightii var. *arbusculum*

イソマツ科

伊豆諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

常緑低木。高さ 15 ~ 20cm。幹は黒褐色で短い。葉は枝先に集中する。葉身はへら型で全縁、先端は円く、長さ 2 ~ 4cm、無毛。葉脈は主脈以外は不明瞭。

【分布の概要】

伊豆諸島、小笠原諸島、九州、南西諸島；台湾

【伊豆諸島における生育環境】

海岸で潮を直接かぶらない岩場の隙間に根を下ろす。多少海水が冠水しても、耐潮性があり、生存できる。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島でも自生地は少数で極めて限定されている。自生地においては自然繁殖が見込まれるため、生育環境を維持するとともに、園芸目的や愛好家による採取に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1981; 新島村 (編), 1996.

「現存する株数」別の情報数

~ 10	~ 50	~ 100	~ 1000	~ 10000	不明
0	1	0	6	0	1

「以前からの増減」別の情報数

~ 1/100	~ 1/10	~ 1/2	~ 1	~	絶滅および未発見
0	0	0	5	0	0

判定基準

E+ACD



©七島花の会

(執筆: 八木正徳・加藤英寿・大場秀章)

ヤマガキ

Diospyros kaki var. *sylvestris*

カキノキ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

落葉高木。樹高 5 ~ 10 m である。山地に生育し、カキノキの変種で葉はやや小型で幅が狭く、枝とともに毛が多い。花期は 6 月。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州 (西部)、四国、九州；济州島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

主に二次林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、周辺を含めた樹林環境を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1989b.

「現存する株数」別の情報数

~ 10	~ 50	~ 100	~ 1000	~ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

~ 1/100	~ 1/10	~ 1/2	~ 1	~	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

ミミズバイ

Symplocos glauca

ハイノキ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

常緑低木ないし小高木。葉は互生し、長楕円形、革質で無毛、先端は短くとがり、基部はくさび形。花期は7～8月。花は花序の軸も短いので、葉腋に花が密集してつく。花は白色で花冠は5裂する。雄しべは多数。果実は核果で長楕円形、黒褐色で、長さ12～15cm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州(千葉以西)、四国、九州、南西諸島;中国、インドシナ

【伊豆諸島における生育環境】

スタジイ林などの常緑樹林内に生育し、低木層を構成する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、競合する低木の除去などの管理を行いながら保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編),1989b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

ハイノキ

Symplocos myrtaea

ハイノキ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

常緑小高木。若枝は細い。葉は互生、狭卵形で先は尾状に尖り、薄い革質で、両面とも無毛、上面には光沢がある。乾くと淡緑色になる。花期は5月。花は白色で散房状にまばらにつく。花冠は5深裂し、径約1cm。雄しべは多数。果実は狭卵形で長さ7～8mm、紫黒色に熟す。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州(近畿以西)、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

スタジイ林などの常緑樹林内に生育し、低木層を構成する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、競合する低木の除去などを行いながら保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編),1989b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

オオバイボタ

Ligustrum ovalifolium

モクセイ科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

半常緑低木。高さ2～6m。枝には毛がなく、灰褐色。葉はやや厚くて光沢があり、形状は変異が大きく楕円形や卵形、倒卵形。花期は6～7月。花序は円錐形。果実は球形で紫黒色。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州；朝鮮

【伊豆諸島における生育環境】

海岸付近に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育状況は不明であり、確認が必要である。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による



(執筆者: 上條隆志)

ハウライカズラ

Gardneria nutans

マチン科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

常緑藤本。茎は緑色で毛がない。葉は対生し、革質で長楕円形や楕円形、卵状楕円形をしており、先端は細くとがり、表裏とも毛がない。花期は6～7月。上部の葉腋から花序を伸ばして1～2個の花をつける。液果は球形で、熟すと赤くなり、種子は4～6個ある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州(千葉以西)、四国、九州の暖帯

【伊豆諸島における生育環境】

常緑広葉樹林の林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

常緑広葉樹林の改変などが脅威となる。自生地の環境を現状のまま維持することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準
ACD



©七島花の会

(執筆者: 上條隆志)

アイナエ

Mitrasacme pygmaea

マチン科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

一年草。高さ5～15cm。茎はごく繊細、下部に数対の葉が対生につく。葉身は卵形、先端はややとがり、3脈がある。花は枝先に数個、やや輪状につく。花期は8～10月。花冠は鐘形で白色、径約3mm。さく果は卵形、上部が2裂する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島；朝鮮半島、中国、マレーシア、ミクロネシア、オーストラリア、インド

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりが良く植生がまばらな草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

小型の植物のため、自生地を特定した上で、開発などによる影響を避けることが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	1	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆: 奥田重俊)

リンドウ

Gentiana scabra var. *buergeri*

リンドウ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、高さ20～100cm、4条線がある。葉は対生、卵状披針形で3脈が目立ち、先は長くとがり、縁には細かい突起があり、柄はない。葉の裏面は淡緑色。花期は9～11月。茎頂および上部の葉腋につく。萼裂片は線状披針形。花冠は紫色、内面に茶褐色の斑点があり、長さ4～5cmで先は5裂し、副片は三角形で小歯がある。島しょのものは草丈が低く直立する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生育環境】

二次林の林縁や草地、ガレ場に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

地下茎が薬用にされることに加え、花も美しいことから、薬用や園芸目的で採取されやすい。自生地情報の公表を避けることが望ましい。

【関連文献】

七島花の会 神津島, 2011a; 佐竹義輔ら(編), 1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
3	1	1	3	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

E+ACD



(執筆: 奥田重俊)

コケリンドウ

Gentiana squarrosa

リンドウ科

伊豆諸島

NT

環境省

【形態・生態】

二年草。高さ2～10cm。茎は基部から分枝して叢生する。ロゼット葉は厚い。茎葉は対生し卵形。花期は3～5月。花冠は漏斗型で長さ12～15mm、淡い青色を帯びる。萼裂片は卵形。さく果に長い柄がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、九州；朝鮮半島、台湾、中国、ロシア（シベリア）、インド北部

【伊豆諸島における生育環境】

芝生などの日当たりの良い草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

芝生などに生育するため踏圧を受けやすい。自生地を特定し、季節によっては自生地への立ち入りを制限することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	3	4	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	2	0	2	0	1

判定基準
協議による



（執筆者：奥田重俊）

ハルリンドウ

Gentiana thunbergii

リンドウ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

二年草。茎は基部が分枝し、通常叢生し、高さ5～15cmになる。根葉はロゼット状で密に重なり合う。茎葉は卵状披針形。花は茎の頂きに1個つく。萼裂片は菱形で反曲しない。花期は3～5月。花冠は淡青紫色で、長さ2～3cm。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

やや湿った草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地における開発などを避けることが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による



（執筆者：奥田重俊）

フデリンドウ

Gentiana zollingeri

リンドウ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

越年草。根生葉はなく、茎は直立。葉は卵形で密に対生する。花期は3～4月。花冠は筒状で先端は5裂し、各裂片の間はやや小さな副片となる。茎の先端に花が1～10個つき、光を受けると開き、遮られると閉じる。5個の雄しべが熟した後、雌しべの柱頭が2裂する。青紫色の花と隣り合い赤紫色の花が咲く。色の濃さに変異があり、白色花もある。花冠が4裂するものや不定形の裂片が八重咲きになるなどの奇形花も散見する。花後、多数の種子を詰めた蒴果の先端が上向きに2裂し、花時とは逆に、光を受けると閉じ、遮られると開く。雨水による種子散布を行う。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い草地や林縁に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

日当たりの良い環境を維持することに加え、自生地の改変に注意することが望ましい。

【関連文献】

七島花の会 神津島, 2008b; 七島花の会 神津島, 2009a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	2	1	2	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

E+ACD



(執筆: 石橋正行)

センブリ

Swertia japonica

リンドウ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

二年草。薬用植物で葉に強い苦味がある。高さ10～20cm。全体紫色を帯びる。葉は対生し、線形。花は円錐花序に密につく。花期は8～10月。花冠は白色で紫色の筋が入る。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

火山草原や路傍に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

道路工事や法面の緑化が脅威となる。また、植生遷移の進行も脅威となるため、植生遷移を進行させない措置を検討することが望ましい。

【関連文献】

大島自然愛好会(編), 2000; 八丈島インタープリテーション協会・植物ガイドブック作成部会, 2007.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	3	2	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	3	1	0	0

判定基準

E+ACD



(執筆: 上條隆志・奥田重俊)

ソナレセンブリ

Swertia noguchiana

リンドウ科

伊豆諸島

EN

環境省

VU

【形態・生態】

一年草。高さ約 10cm。茎は茶褐色を帯び、下部から枝分かれする。葉は対生し、へら形、多肉質で光沢があり、長さ 15mm。花期は 10～11 月。花は小枝の先端か葉腋に 1 個つける。花冠は黄白色で 5 深裂し、裂片は長さ約 15mm、倒卵形で紫色の筋が入る。裂片の根元側に黄白色の蜜腺溝が 2 個ずつあり、その周囲には毛はないか、ごく短い毛がまばらにある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（伊豆半島）

【伊豆諸島における生育環境】

海岸近くの崖や急傾斜地の裸地・草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

草本や低木の繁茂により個体群が縮小・消失しつつある。目立たない植物なので、海岸堤防や護岸・道路工事などの際には注意が必要である。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
3	0	0	2	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	2	2	1	0	0

判定基準
ACD



（執筆者：加藤英寿）

イヌセンブリ

Swertia tosaensis

リンドウ科

伊豆諸島

DD

環境省

VU

【形態・生態】

一年草または二年草。茎はしばしば基部から分枝し、四稜形。高さ 10～30cm。全体が無毛である。根生葉は小型で広倒披針形または倒卵形、茎葉は対生し、倒披針形で柄がない。花期は 9～11 月。花序は狭い円錐状に集まる。花は白色、径 15mm。花冠は 5 裂する。さく果は狭い卵形長さ 1cm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い貧栄養な湿地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地における開発などを避けることが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による



（執筆者：奥田重俊）

サカキカズラ

Anodendron affine

キョウチクトウ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

常緑藤本。全体が無毛で、枝は紫色がかかる。葉は狭長楕円形、革質。花期は4～6月ごろ。円錐状の花序を枝先につけて、淡黄色の花を密につける。袋果は円柱状披針形。種子は褐色で先は細くなり、長さ3cm内外の自長毛がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州(千葉以西)、四国、九州、南西諸島;中国、台湾、インド

【伊豆諸島における生育環境】

常緑広葉樹林の林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

常緑広葉樹林の改変などが脅威となる。自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	5	0	2	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	3	0	0

判定基準

E+ACD



(執筆: 上條隆志)

カギカズラ

Uncaria rhynchophylla

アカネ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

常緑藤本。長さ10m以上になる。全体無毛。葉は対生し、卵状楕円形で先端が細くとがり、長さ5～12cm。枝には、他の植物に絡みつ়くための強く湾曲した鉤がある。花期は6～7月。長さ2～3cmの柄の先に球状の花序をつける。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州(房総半島以南)、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

常緑広葉樹林の林縁に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

常緑広葉樹林の改変などが脅威となる。自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 教育委員会『フィールド図鑑—御蔵島の植物・動物』制作部会, 2007.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆: 上條隆志)

ハマネナシカズラ

Cuscuta chinensis

ヒルガオ科

伊豆諸島

DD

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。根出葉はロゼット状で長さ7～20cm。茎は斜上し高さ7～20cm、開出する白毛が多い。花期は4～5月。花序は分枝せず、花冠は淡青紫色、径約1cm。花後、萼が伸びる。分果は平滑。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（福島以南）、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在の生育状況については情報が得られていない。分布や生育の状況を確認することが望まれる。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による

No image

(執筆者：加藤英寿)

ネナシカズラ

Cuscuta japonica

ヒルガオ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

一年草。寄生植物。茎は針金状で草本や低木に巻きつき、無毛、普通は紫褐色の斑点がある。葉は三角形、鱗片状で長さ2mm以下。花期は8～10月。花は淡黄白色で、鐘形で長さ3.5～4mm、先は5裂する。さく果は長円形で長さ約4mm、はじめ花冠をつけるが、のちに花冠は脱落して裸出して、基部は横裂する。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、南西諸島；朝鮮半島、中国、ロシア（アムール）

【伊豆諸島における生育環境】

林縁の草地や低木林に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林縁の開発や農道の造成などの工事により影響を受ける可能性があるため、自生地の保全に留意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆者：奥田重俊)

ホタルカズラ ※備考 (p. 213)

Lithospermum zollingeri

ムラサキ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。茎は細く、花後に基部から匍匐枝を出し、翌年の花枝をつける。花のつく茎は高さ15～20cm。葉は互生し、披針形、表面に粗い毛がある。花は茎の先端に数個つく。花期は4～5月。花冠は青紫色、径15～18mm、高杯状で5裂する。果実は1～4個熟し、滑らかで白色。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、台湾、中国

【伊豆諸島における生育環境】

明るい林内や林縁、植生のまばらな斜面などに生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取を避けることに加え、競合する植物を選択的に除去することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

ヤマルリソウ

Omphalodes japonica

ムラサキ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。根出葉はロゼット状で長さ7～20cm。茎は斜上し、高さ7～20cm、開出する白毛が多い。花期は4～5月。花序は分枝せず、花冠は淡青紫色、径約1cm。花後、萼が伸びる。分果は平滑。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州(福島以南)、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在の生育状況については情報が得られていない。分布や生育の状況を確認することが望まれる。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 加藤英寿・奥田重俊)

ヤマトウバナ

Clinopodium multicaule

シソ科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

多年草。茎は単生または束生し、高さ10～30cm。葉は対生、卵形から長卵形、まばらに毛があり、やや鋭頭、粗い鋸歯があり、柄がある。花序は短く、茎頂に1個つく。花期は6～7月。萼は緑色、長さ5～7mm。短毛が散生する。花冠は白色で、長さ8～9mm、上唇が浅く2裂、下唇が3裂する。分果は長さ約1mm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州(中部以西)、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

林縁に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

道路法面の改修などに際し、自生地を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

ナギナタコウジュ

Elsholtzia ciliata

シソ科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

一年草。全体に香気がある。高さ30～60cm。茎は四角で軟毛があり、多く分枝する。葉は対生、卵形から狭卵形で、裏面の脈上と表面に散毛がある。花期は9～10月。偏側に密に花をつけ、長さ5～10cm。花穂はなぎなた状に曲がり、扁円形の苞が密に被う。花冠は長さ3～5mm、淡紅紫色で外面に短い白毛が多数生える。雄しべはわずかに花外に突き出る。分果は狭倒卵形でやや扁平。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州; アジアの温帯

【伊豆諸島における生育環境】

林道沿いに生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道の造成などにより自生地が消失することのないように留意することに加え、自生地の周辺を含めた保全をすることが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

ヤマハッカ

Isodon inflexus

シソ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。地下茎は塊状で木化する。茎は高さ 40～100cm、上部は分枝し、下向きの毛がある。葉は対生、広卵形から三角状広卵形で粗い鋸歯があり、鋭頭からやや鈍頭で、葉柄には翼がある。花期は 9～10 月。集散花序がやや狭い花穂をつくって多数つく。萼は 5 中裂し、密に短毛が生える。花冠は青紫色、長さ 7～10mm。分果は球形。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

林縁に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

道路法面の改修などに際し、自生地を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆: 奥田重俊)

テンニンソウ

Leucosceptrum japonicum

シソ科

伊豆諸島

NT

環境省

【形態・生態】

多年草。地下茎は横に這い、木化する。茎は高さ 50～100cm、四角で星状毛がある。葉は対生、長楕円形から広披針形で先は鋭くとがり、花序の苞は先が少し尾状にとがる。花期は 9～10 月。花は淡黄色で長さ 8mm。花冠は先がやや唇状。雄しべは 4 個で 2 個が長く花冠から突出している。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

落葉樹林内や、沢沿いに群落を作る。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、競合する植物を草刈りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	1	1	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

ヒメハッカ

Mentha japonica

シソ科

伊豆諸島

DD

環境省

NT

【形態・生態】

多年草。細長い地下茎を伸ばし、茎は高さ 20～40cm。葉は対生し、細い。花期は 8～10 月。花はやや散状に 10～20 花をつける。花冠は淡紅紫色、鐘形で 4 裂。雄しべは 4 個あり、花外に突き出る。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州

【伊豆諸島における生育環境】

湿った草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地が特定された際は、周辺を含めた草地環境を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1981.



(執筆: 奥田重俊)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による

ヤマジソ

Mosla japonica

シソ科

伊豆諸島

EN

環境省

NT

【形態・生態】

一年草。全草に香気がある。茎は高さ 10～40cm、多数分枝して紫色を帯びる。葉は対生。長卵形。花穂は短く 1～4cm。卵形の苞がある。花期は 9～10 月。上部の葉腋に単生するか茎頂に短くて密な花穂をつくる。花冠は淡紅紫色、唇形で長さ約 3mm。上唇が 2 裂、下唇が 3 裂する。分果は 4 個、表面に網目模様がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島（南部）

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

道路の造成に際して、自生地を保全することが望ましい。

【関連文献】

七島花の会 神津島 2011a; 佐竹義輔ら (編), 1981.



©七島花の会

(執筆: 奥田重俊)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	2	1	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	2	0	1	0	0

判定基準
E+ACD

イヌコウジュ ※備考 (p. 213)

Mosla punctulata

シソ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

一年草。茎は高さ 20～60cm、直立してよく分枝し、細毛があって紅紫色を帯びる。葉は対生、狭卵形から広卵形で柄があり、基部はくさび形、表面には細毛があり、縁に低い鋸歯がある。花期は 9～10 月。萼の上片 3 歯の先は鋭くとがる。花冠は淡紅紫色、唇形で長さ 3～4mm。分果は倒卵形で網目模様がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、南西諸島；朝鮮半島、台湾、中国

【伊豆諸島における生育環境】

林縁に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道の造成などにより自生地が消失しないよう配慮することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

シソバタツナミソウ

Scutellaria laeteviolacea

シソ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。高さ 5～15cm。茎には上向きに曲がった短毛が生える。葉は 2～4 対あり、三角形に近い卵形で基部は切形、長さ 1.5～4cm。葉は縁に鈍鋸歯があり、両面に毛が生え、表面は光沢があり、裏面は通常紫色を帯びる。花期は 5～6 月。花序は長さ 1～6cm、花冠は長さ約 2cm で紫色をしており、基部付近がほぼ直角に曲がって立ち上がる。萼には腺点と毛が密生し、分果には円錐状の突起が密生する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州 (福島以西)、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在の生育状況については情報が得られていない。分布や生育の状況を確認することが望まれる。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 加藤英寿)

イヌゴマ

Stachys riederi var. *intermedia*

シソ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。細長い地下茎を伸ばす。茎は直立し高さ 40～70cm、稜には下向きの刺毛が生える。葉は三角状披針形、裏面の中肋にも短い下向きの刺毛があつてざらつく。花期は 7～8 月。萼は 5 裂して裂片の先は刺状にとがり開出する。花冠は淡紅色、長さ 12～15mm、下唇は 3 裂して紅色の細点がある。分果は長さ約 1.7mm。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

小河川沿いや湿地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の開発などにより自生地が消失しないよう配慮することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



© 寺尾博

(執筆: 奥田重俊)

サウトウガラシ

Deinostema violaceum

ゴマノハグサ科

伊豆諸島

EN

環境省

【形態・生態】

一年草。葉柄のない被針形の葉が対生する。花期は 8 月中～下旬。イズノシマホシクサの後を追うかのように咲き始める。花柄は葉の付け根から斜めに伸び、先端に花を 1 個つけ、下から順に開花する。花冠は淡紫色。上唇と 3 裂する下唇からなる唇形花で、下唇中央裂片がもっとも大きく、その先端はやや突起状になるが、突起がない場合や 2 裂する場合もある。上唇は下唇中央裂片よりやや小さく、赤紫色の濃い筋模様が目立つ。雄しべは 2 個で、葯の先端に軟毛が立ち上がり、萼片から花茎、茎にかけて腺毛が目立つ。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

低木林内の窪地の雨水がたまつた貧栄養な湿地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

スギゴケやチゴザサが勢力を拡大して自生地を覆っている。自生地は 2 箇所だが、1 箇所ではほぼ絶滅した。

【関連文献】

七島花の会 神津島, 2007a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	2	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	1	0	0	0

判定基準

E+ACD



© 七島花の会

(執筆: 石橋正行)

アブノメ

Dopatrium junceum

ゴマノハグサ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

一年草。茎は高さ10～25cm、基部は分枝する。潰せばパチパチ音がする。葉は対生、披針形または線状長楕円形、上部のものは次第に小さくなる。花期は8～10月。花は茎の上部の葉腋に1個ずつつく。萼は深く5裂し、花冠は淡紫色、筒形で長さ5mm、先は唇形。果実は球形。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州(福島以南)、四国、九州、南西諸島;朝鮮南部、中国、東南アジア、インド

【伊豆諸島における生育環境】

ため池の水際や湿地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行に注意し、自生地の湿地環境を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編),1981.

「現存する株数」別の情報数

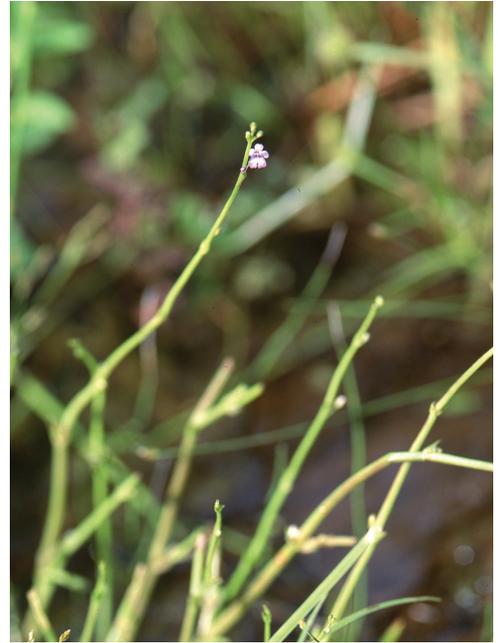
～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

ハチジョウコゴメグサ ※備考(p.213)

Euphrasia hachijoensis

ゴマノハグサ科

伊豆諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

一年草。茎はあまり分岐せず、高さ5～10cm。花期は7～9月。上部の葉腋ごとに花を1個ずつつける。花は白色で紫色の筋がある。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

高標高地の火山草原に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自然災害を含めた自生地の環境変化が脅威となる。また、道路工事や法面の緑化も脅威となりうる。さらに、植生遷移の進行も脅威となる。そのため、植生遷移を進行させない措置を検討することが望ましい。

【関連文献】

教育委員会『フィールド図鑑—御蔵島の植物・動物』制作部会,2007;
八丈島インタープリテーション協会・植物ガイドブック作成部会,2007.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	1	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	1	0	1	1	1

判定基準

ACD



(執筆: 上條隆志)

コシオガマ

Phtheirospermum japonicum

ゴマノハグサ科

伊豆諸島

EN

環境省

【形態・生態】

一年草。茎は直立し高さ 20～70cm、全体に著しい腺毛がある。葉は三角状卵形で羽状分裂し、下方の裂片は小羽片となり、葉身の基部は切形である。花期は 9～10 月。枝の上部の葉腋ごとに 1 花をつける。萼はやや密に腺毛がある。花冠は淡紅紫色、唇形で長さ約 2cm、外面には軟毛と腺毛が生える。さく果は長さ 10mm。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国（中北部、東北部）、ロシア（アムール）

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

草地の開墾などにより自生地が消失しないよう配慮することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	2	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	1	0	0	0

判定基準

E



© 寺尾博

(執筆者：奥田重俊)

オオヒキヨモギ

Siphonostegia laeta

ゴマノハグサ科

伊豆諸島

CR

環境省

VU

【形態・生態】

半寄生の一年草。全体に開出した腺毛がある。茎は高さ 30～70cm、葉は卵形で対生し羽状に深裂。花期は 8～9 月。花は上部の葉腋に 1 個ずつつく。萼裂片は長さ 5～7mm。花冠は灰黄色、外面全体に短軟毛を疎生し、上唇の先は切形。下唇の内側に密毛がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東以西）、四国；中国（中南部）

【伊豆諸島における生育環境】

自然林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地が特定された際は、周辺も含めた保全をすることが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
2	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆者：奥田重俊)

ハマクワガタ

Veronica javanica

ゴマノハグサ科

伊豆諸島

CR

環境省

VU

【形態・生態】

二年草。草丈は10～40cmで、葉は対生し、葉身は三角状卵形で鈍鋸歯があり、長さ1.5～4cm、まばらに軟毛がある。花期は4～5月。花穂は茎の上部に数個つく。花冠は淡い瑠璃色で径2～2.5mm。さく果は扁心形。

【分布の概要】

伊豆諸島、小笠原諸島、本州(伊豆以南)、四国、九州、南西諸島;中国、東南アジア、インド、アフリカ

【伊豆諸島における生育環境】

海岸付近の草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

草地の開発などにより自生地が消失しないよう配慮することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編),1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	0	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆: 奥田重俊・加藤英寿・大場秀章)

イヌノフグリ ※備考 (p. 213)

Veronica polita subsp. *lilacina*

ゴマノハグサ科

伊豆諸島

CR

環境省

VU

【形態・生態】

二年草。茎は下部で分枝し、長さ10～25cm。葉は対生、上部で互生し、卵円形で毛がある。花期は3～5月。花冠は径2～3mm、淡紅白色で紅紫色の条がある。萼は3～6mm、萼片は卵形、少数の脈がある。さく果は球形で中央がくびれる。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島;東アジアの温帯

【伊豆諸島における生育環境】

耕作地や路傍などに生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

草地の開発などにより自生地が消失しないよう配慮することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編),1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

オオナンバンギセル

Aeginetia sinensis

ハマウツボ科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

一年草。寄生植物である。茎はごく短い。花柄は鱗片葉から立ち、高さ 20～30cm。萼の先端は鈍い。花期は 7～9 月。花は横を向き、紅紫色。花冠は筒状で長さ 4～6cm。先は 5 裂し、やや唇形となる。さく果は卵形で微小な種子が多数ある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州；中国（中部）

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を含めた草地環境を広く保全することに加え、競合する植物の刈取りを行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981。



（執筆者：奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による

シマガマズミ

Viburnum brachyandrum

スイカズラ科

伊豆諸島



環境省



【形態・生態】

落葉低木。高さ 2～4m。葉は対生し、厚くて硬く、表面に弱い光沢がある。花期は 5～6 月。小さく白色の花を枝先に多数まとまってつける。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

比較的高標高地の明るい樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を現状のまま保全することが望ましい。自生地によっては、競合種の除去の検討も望まれる。

【関連文献】

教育委員会『フィールド図鑑—御蔵島の植物・動物』制作部会，2007；八丈島インタープリテーション協会・植物ガイドブック作成部会，2007。



（執筆者：上條隆志）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
4	7	3	1	0	9

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	8	0	0

判定基準
ACD

オオカメノキ

Viburnum furcatum

スイカズラ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

落葉低木。高さ 6m になることがある。葉は対生し、円状から広卵形。花期は 4～6 月。装飾花は花弁が 5 深裂する。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、南西諸島(屋久島)、対馬

【伊豆諸島における生育環境】

高標高地の明るい樹林内やササ草原に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の改変などが脅威となる。自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; .

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
2	1	0	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

ACD



(執筆者: 上條隆志)

コハクサンボク

Viburnum japonicum var. *fruticosum*

スイカズラ科

伊豆諸島

VU

環境省

EN

【形態・生態】

常緑低木。高さ 2m 以内。葉は対生し、革質で光沢がある。花期は 4～5 月。小さく白い花を多数つける。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州(横浜)

【伊豆諸島における生育環境】

常緑広葉樹林に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

常緑広葉樹林の改変などが脅威となる。自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

神奈川県植物誌調査会(編), 2001; 八丈島インターブリーディング協会・植物ガイドブック作成部会, 2007.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
2	1	0	2	1	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	0	2	0	0

判定基準

E+ACD



(執筆者: 上條隆志)

シマキンレイカ

Patrinia triloba var. *kozushimensis*

オミナエシ科

伊豆諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

多年草。葉は厚く掌状で、全体的にはほぼ無毛。花期は7～8月。筒状で黄色い花を多数つけ、距は短い。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

高標高地の火山草原や岩場に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自然災害を含めた自生地の環境変化が脅威となる。その一方で、火山草原などでは、植生遷移の進行も脅威となる。そのため、植生遷移を進行させない措置を検討することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1981; 教育委員会『フィールド図鑑—御蔵島の植物・動物』制作部会, 2007.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
2	0	1	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	1	2	1	0	1

判定基準

ACD



© 七島花の会

(執筆者: 上條隆志)

オトコエシ

Patrinia villosa

オミナエシ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。葉は対生し、粗い鋸歯縁を持つ単一葉または羽裂状になって、基部は翼を形成することがある。花期は9～10月。多数の小花を集散状につける。本土と異なり、伊豆諸島では1本立ちで、茎、葉、花序も大型で頑丈に見える。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、南西諸島; 中国、朝鮮半島

【伊豆諸島における生育環境】

山の路傍や岩場の草地、ススキ草原、崩壊地や伐開地などの明るく乾燥した場所に先駆的に侵入、定着する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の光環境が維持されれば、個体の生存は維持されるので、適度なく乱管理を行って日当たりの良い環境を維持することが望ましい。また、伊豆諸島の個体群は島しょ変異型として保全を検討することが望まれる。

【関連文献】

千葉県史料研究財団(編), 2003; 七島花の会 神津島, 2011a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	2	3	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	2	1	0	0

判定基準

E



(執筆者: 八木正徳)

ソバナ

Adenophora remotiflora

キキョウ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 50～100cm で直立するが、上方は傾く。茎葉は互生し、卵形または広披針形。上部の葉は小型、無柄。花期は 8 月。花は円錐花序につき、垂れ下がる。萼裂片は披針形で全縁。花冠は淡青紫色、鐘形で裂片はやや反り返る。花柱は通常は突き出ない。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

明るい二次林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、競合する植物の刈取りを行うなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

ツリガネニンジン (ハマシャジンを含む)

Adenophora triphylla var. *japonica*

キキョウ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。葉は 3～4 枚が輪生し、細長いものから丸みを帯びたものまであり、鐘形の花も色や形に変異がある。花期は 7～8 月。雄しべ先熟花で、開花前、花粉は雌しべ先端の密毛に付く。開花とともに花柱(基部は花盤に囲まれる)が伸び、花盤の蜜に誘引された昆虫が花粉を持去ると、柱頭先端は 3 裂する。ツリガネニンジンの海岸型がハマシャジンで、葉が厚く光沢が強い。大島のハマシャジンは、花冠から突き出る雌しべの長さがツリガネニンジンより短く、花冠から少し突き出る程度である。また、花冠から突き出ない個体も見られ、新島ではさらに多くなり、神津島ではほとんどの個体が花冠から突き出ない。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州

【伊豆諸島における生育環境】

海岸から山頂までの日当たりの良い岩上や草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

採取のおそれは少ないが、日当たりの良い環境を維持することが望ましい。

【関連文献】

七島花の会 神津島, 2011b; 七島花の会 神津島, 2012e.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
2	0	0	4	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

E+ACD



(執筆: 石橋正行)

ツルニンジン ※備考 (p. 213)
Codonopsis lanceolata

キキョウ科

伊豆諸島 **CR**

環境省

【形態・生態】

つる性の多年草。塊根は倒卵状紡錘形。茎はつる状に2～3m伸び、ほぼ無毛。葉は互生、側枝の先に普通3～4個集まる。葉身は長楕円形または長卵形で薄く、縁はほぼ全縁、裏面は粉白色を帯びる。花期は8～10月。花は側枝の先から下垂する。萼の先は杯形に5裂し先はとがる。花冠は広い鐘形、内面に褐紫色の斑がある。萼は子房と合着する。花柱は花冠からやや突き出る。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国、ロシア（ウズリー、アムール）

【伊豆諸島における生育環境】

樹林内や林縁に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の伐採などにより自生地が消失しないよう配慮することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による



（執筆者：奥田重俊）

キキョウ
Platycodon grandiflorum

キキョウ科

伊豆諸島 **CR**

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。高さ30～60cm。葉は厚く光沢があり、互生、輪生し、大きさは茎の上部につくものほど小さい。葉と葉の間が狭く、葉序全体の形が40枚前後の葉によって二等辺三角形になる個体もある。花期は8月中旬～9月上旬。茎の先端に1個、枝分かれして1～5個の花をつけ、先端から順に開花する。開花直後、雄しべの葯5個は、まだ短い雌しべに寄り添いながら花粉を出し、葯が空になり花柱が花粉で覆われると、直角に開いて倒れる。花糸は白色で、葯より短い。花柱が伸び、花粉が訪花した昆虫によって運び去られると、雌しべ柱頭が5裂する。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い低木林の路傍（登山道沿い）などに生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

限られた範囲に生育し個体数が少なく、植生遷移の進行に注意することが望まれる。

【関連文献】

七島花の会 神津島，2009d；七島花の会 神津島，2011a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準
ACD



©七島花の会

（執筆者：石橋正行）

ヒナギキョウ

Wahlenbergia marginata

キキョウ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。根は太く長い。草丈は20～40cm、茎は稜があり細く、多数束生する。葉は互生し、倒披針形で長さ2～4cm、縁は波状の鋸歯がある。花期は5～8月。枝先に淡青色の花をつける。花冠は漏斗形、5深裂する。

【分布の概要】

伊豆諸島、小笠原諸島、本州(関東以西)、四国、九州;朝鮮半島、中国、東南アジア、オーストラリア

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

開発などにより自生地が消失することに加え、植生遷移の進行により消失すると考えられる。自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編),1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	1	2	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

E+ACD



© 寺尾博

(執筆: 奥田重俊・加藤英寿・大場秀章)

ヒロハテイショウソウ

Ainsliaea cordifolia var. *maruoi*

キク科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。地下茎は細くて這う。茎は高さ30～60cm、褐紫色で、はじめ軟毛で被われる。葉は茎の下部に4～7枚が集まってつき、卵状ほこ形で暗紫色を帯び、白い模様がある。葉の縁に欠刻状の鋸歯がある。花期は9～11月。頭花は総状花序につく。花柄には苞が多数つく。小花は3個、花冠は白色、長さ15～19mm、筒部は長さ6～8mm、左右相称。そう果の冠毛は羽毛状。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州(伊豆半島、東海、近畿)、四国

【伊豆諸島における生育環境】

樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、周辺を含めた樹林環境を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編),1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆: 奥田重俊)